

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	俳句：文苑
Author(s)	蓼舟；落葉；青冥；石鹿；旭洲；玲瓏；芝峯；まさこ；草江
Citation	龍南會雜誌， 7 1： 4 1 - 4 2
Issue date	1899-03-31
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5254">http://hdl.handle.net/2298/5254</a>
Right	

漢詩

雪江獨釣圖

藤井膽南

簑笠雪江晚，扁舟趣轉奇。已爲風月主，何顧帝王師。玩世竿三尺，忘寒酒一卮。不知醉眠裏，水凍斲垂絲。

月夜讀書

聊學齊才子，繙書對月明。紅燈空失寵，清影自多情。火瘦鼎湯嘿，霜凝林鳥驚。古人恍然至，机上笑相迎。

草色如烟

香輪未輟霽光妍，霽出王孫去後天。一望青青三十里，滿郊芳草澹如烟。

春日過田家

日高青溟

春日携朋野水隈，梅花開處暗香來。淡煙一抹孤村晚，馬上少年吹笛回。

遊成道寺

逍遙曳杖入蟬關，脫却俗塵心自閑。欲遇山僧問陳迹，松風颯々水潺潺。

又

松風清處對流川，獨伴蟬僧談轉玄。富貴元來非我願，願遊世外詠天然。

俳句

紫溟吟社俳句

大なる門松並ぶ長者町  
門松を取り去り難きおもひかな  
酔醒めて薄き衾をかこつかな  
城を出づれば紅白の梅處々  
若草を切りては馬に與へけり  
苗代に蛙夥しく孵化えたる  
馬肉賣る行燈暗き冬木立  
垢付いた衾の襟の寒さかな  
門松に振袖かゝる恨かな  
門松や宰相の門のいかめしき  
片隅に梅咲いて居る新築場  
眞黒な辻のポストや朧月  
際いて見ゆる小さき社や冬木立  
小鳥往來す苗代の水緑なり  
朧月櫻の馬場の眞上かな  
城を出て花に入りけり春の水  
蛇は穴人は巨燵を未だ出でず  
朽葉皆泥に化しけり春の水  
賣家貸家梅辛うじて咲きにけり  
月朧歌うて歸る村男  
水引くや三坪に足らぬ苗代田

全全全草ま芝全玲全全全旭石青全全全全全全全  
さ  
江こ峯璫洲鹿冥葉舟